夕刊 磐城新聞
七月十九日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢（郵稅拾五錢）
廣告料 普通欄金六拾錢 特別欄金九拾錢（五號十二字詰一行 場所指定一行一割增）
編輯印刷兼發行人 柏木 福島縣石城郡平町 町十六番地
發行所 磐城新聞合名會社
登錄受信電略（タイライワキ） 平郵便局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

歌集『はまゆふ』詩南社の遺業成る

曩に解体を聲明した詩南社の代表歌人自選歌集『はまゆふ』は原稿未揃ひのため遲延中であつたが去る廿五日定稿成り直ちに東京池袋愛文社にて印行明二十日詩南社から發行されることになつた、この歌集は從來詩南社を中心として發達してきた郷土歌壇人を網羅する筈であつたが結局左の二十二名が錄されてゐる

石川梅子、戸部啜歌、大平松夫、吉田甫、高久晩歌、高木愛二、武田あけみ、根本橘月、黑江霓、熊谷企見子、山岸彩子、山野邊靑甫、山下多賀子、松村淸、井尻鋺子、赤井嶽男、秋間小路、澤美枝、佐藤義家、佐々木顯、佐川和弘、美崎一郎、白木英尾

四六判五十餘頁の瀟洒な裝幀で地方に於るこの種の單行本としては極めて洗錬されたものであらう。編輯は高久、片寄、白木の諸氏が努力したらしく今後この顔觸れを揃へるのは至難なことであらうから編輯各氏の勞苦も充分に酬ひられてゐゝ、この意味からも新妻、渡邊、萩原の諸氏の名が見ゑないのは物足りないものがある。左に歌首三四抄いてみる（定價壹圓、平町五丁目二八詩南社發行）

乾きたるさ庭の土にこまごまと八つ手の花の散りこぼれたる　高久晩霞

菜の花のあかるき畑にうちつゞき麥の五寸の靑きあさかな　武田あけみ

眞靑なる草生にまろび哀しみは遥かの空に湧きてありけり　山岸歌子

肯定もなく否定もなくひたすら頼つてくる友の純情に生きてゐる　井尻鋺子

河瀬東朝子の息を悼み
かりそめの病いがなどで永へに吾子を奪ふと知るべかりしや　赤井嶽男

ひようひようと吹きまくる風がおれの思想へ火をつけていつた　白木英尾

（玲生記）

小さき記念塔（後序）

片寄耿二

大正十五年六月詩南社創めて以來、同人雜誌『詩南車』は石城の文藝人の中心となつてきたが、殊に短歌作品では竹柏園系の高久晩霞氏が主として其の指導的な地位にゐつて、同人では故宮田齊波君や今北海道に居る佐藤義家君達が熱心に短歌の道を拓いていつた松村淸君もその頃の人であつた。そのため『詩南車』に集まる郷土人は殆と歌を作り、或は作つたことのある人ばかりで、今假りに石城文壇といふものがあるとすれば、それはおほむね短歌人によつて占められて居るといふ淸勢に立至つた。これは自分としても非常に感慨深いことである。自分達微力がこゝまで築き上げ得たことを思ふと、或は先輩から冷視され或はいろいろの艱難と鬪つてきた過去も今は微笑ましく思ひ出されるのである。

自分達の仕事もこゝらで一先づしめくゝりをつけてを置きたいと思ふ。詩南社の對社會的使命も歷史的役割も一先づ終つたことを痛感する。前車を踏みこえてどんどん進んでいつて貰ひたい人々があとから簇々と出てくる。この時にあたつて『はまゆふ』一卷は自分達の一つの記念塔である然しそれにしては『はまゆふ』はあまりに小さくあまりに貧しすぎる。新妻久滿夫氏、渡邊何鳴氏、萩原たけ子氏の原稿も遂に洩れてしまつた。詩南社解体の最後の仕事として自分はもつと充實したものを作りたかつたと殘念に思つてゐる。

晴耕雨讀

ささきあきら

（24）

弔古戰場文　芭蕉

三代の榮耀、一睡の中にして、大内の跡は、一里こなたにあり。秀衡が跡は、りて、金鷄山のみ形を殘す。先づ高館にのぼれば、北上川は南部より流るゝ大河なり、衣川は泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落入る、泰衡が舊跡は、衣が關を隔て南部口をさしかため、えびすをふせぐと、見ゑたり、さても義臣すぐつて此の城にこもり、功名一時のくさむらとなる

國破れて山河あり、城春にして草靑みたりと、笠打ちしきて時うつるまで泪を落しはべりぬ

夏草やつはものどもが夢の跡

卯の花に兼房見ゆる白毛かな　曾良

かねて耳驚かしたる二堂開帳す、經堂は三將の像を殘し、光堂は三代の棺を納め三尊の像を安置す、七寶散うせて珠の扉風にやぶれ金の柱霜雪に朽ちて既に頽廢空虛の叢と成るべきを、四面新に圍んでいらかを覆ふて風雨を凌ぐ暫時千歳の記念とはなれり。

筑波山

一木二郎

ケーブルカーのぼつてゆくに
どこまでも
同じ高さに
見える富士山
利根川も
遠く光つて

依雲亭

拈華微笑

◇民に菜色野に黄色。稻苗が枯れて之の新熟語生る ◇平區半年の登記一萬五千件。內家屋敷を叩いたのが幾つだらう ◇今度は分配率で頭痛。飽迄も面到な降參稅 ◇起きるとも消えるとも未だ決らぬ質の悪い木炭同業組合 ◇愈々あすから土用、汗の出方も本式になつた

休んで居れば
氣象台
風見の車
霧にかくれる

あゝいゝな
山百合の花の蔭から
鐵うぐひすの
聲も聞ゐる

霞ヶ浦に
舟は居ないか
あの煙り
日立銅山
その向ふ
大平洋だな。

新刊紹介

◇白銀（短歌雜誌第七輯）福島縣と萬葉集（吉岡棟一）白銀に寄す（高木愛二）其他（信夫郡大森村中町其社發行）

7月20日
△楠公に正一位を贈る（明治一三）△姫路城巢籠りの白鷺退治（八月廿五日迄）狩獵一萬三千羽（昭和五）△獨逸救濟の七ヶ國會議を倫敦に開く（同六）△イタリー內閣大改造△ドイツ大統領緊急命令を發し首相パーペン氏をプロイセンに對する聯邦最高委員に任命（同七）

社會の今日

○
夜網うつ顔にしぶきや夏の月　八重櫻

乳房黑き人しどけなく晝寢せり、南瓜の蔓のかぶさる家に　高津天蕾

講談　劍火無情

（70）津屋義人作　菅野祐作畵

磯ヶ濱引揚げ（二）

水戸城下の上市で一流旅館の鶴屋市兵衛方では此不思議な上客を優待した。

常ならば女中一人、次の室に附切りで、優遇歡待の限りを盡す筈だが、何分一家の老幼は他地方へ避難させねばならぬ中、主人や番頭が思ふ半分も待遇をなし得なかつた

『お酒を持つて來て下さいな。お肴なんか此騷ぎの中で賛澤は言ひませんから……それから何うです、水戸の御城内へ宍戸の殿樣がお入りになりましたか、誰かに聞かせて下さいな』

女客は悠々斯う言つてゐた

番頭も畏まつて酒肴を女中に運ばせ、自分は恐る恐る町中へ出て大手の模様などを問合せて來た

そして女中達に言つた

『お前達は今日のお客樣を何者だと思ふね。永年此商賣に奉公してゐながらあのお客許りは私の目が届かない。花柳者にしては上品過ぎるし、お屋敷風はあるやうだが、酒を獨りで召上ると被仰るから、よもや武家の出ではない。と言つて町人ちやアない、幾ら大家だつて長者だつて……ア、何うしても判からないね』

女達も言つた

『番頭さん、今も噂してゐる所なんです、お繁さんが今一つ巧い事を言ひましたがね、事に由つたら其んなお方ぢやないかと思ひますのよ』

『お繁さん、お前マア何と見立てたね』

『私ね、江戸のお旗下のお孃さんが道樂の果て役者や藝人とイ、仲になり、粹な人達の中に入交つて、ア、した風の女になんなすつたんだが、それでお邸から勘當となつても、猶且親御樣は子が可愛いから常にお金は絕す送つて下さる……といかやうな譯で、其好い人と此方へ來なすつたんだか其好い人といふのが、何か水戸の御城内か、それとも宍戸樣の御同勢の中にゐるので、それが心配で斯うして宿を取つて容子を見る……そんな事ちやありますまいか、番頭さんは何う考へます』

『エラーイ巧い所を狙つた俺にもそれ以上の見當は附かない、さうだ〳〵それで宍戸の殿樣の御入城を問ひ合せて來いと言ひなすつたんだ。兎も角大手の模様を申上げて來やう』

番頭は素性の判らぬ大膽な女の前へやつて來た

『へイ申上げます、大手にも大砲を据附けまして鐵砲組御同勢が固めてゐられます。で敵は誰であらうと段々問ひ合せました處御入城なさらうとする宍戸の殿樣のあの松平大炊頭樣は可ゝだが、小金井へ脱走した御家中の方の入城は一切成らぬといふので、よしや大炊頭樣御入城でも、脱走の士が一人でも附添ふ時は大砲を放つて打拂はうといふ御城内の方々の意氣込みださうでございます』

女は銚子の酒を手酌で湯吞へ注ぎながら

『御苦勞樣でした事ね、それで宍戸の御同勢は未だ御城下へは入りませんか』

『サア、それも今聞き合せました處、もう上市にも下市にも百何十人繰込んで居られました、若し入城を拒むとなつたら此方々は搦め手へ廻る手筈だと……之は大きな聲では申されませぬが、秘密の事だといふ事で……』

『さうでしたかい、ぢやア今一度使ひに行つて下さいな、下市の川の端で材木屋の伊勢甚といふ家へ』

『へイ、あの伊勢甚さんは承知して居りますが、大旦那へですか、それとも若旦那への御用でございますか!』

『イ、エ主人ぢやありません、彼處の離室にゐる江戸の易者、細川阿龍軒といふ人へ、私が此處にゐる事を成るべくは家の者に知れないやうに、一寸知らせて呉れたらそれで可いのです』

『へイ畏りました、左樣なら貴女樣のお名前は……』

『名前なんか言はなくつても、江戸から來たおキャンな女と言やア阿龍軒先生は能く知つてですよ……ア、ッ、好い事がある。お前さん易を立てゝ貰ふ客になつて』

斯う言つた途端、城門の方に當つて轟然一發の砲聲が聞れた、敵が迫つたものらしい。

金融
恩給年金 低利立替
軍人官吏其ノ他一般（教員巡査）モ速カニ御用立致シマス。
御希望の方は表記へ御來談を乞ふ。
平町六丁目百〇壹番　鈴木龜雄

吉例賣出し
七月廿二日は土用丑の日
牛肉の御用命は他店の追隨をゆるさぬ
三二三やへ
電話三二三番　田町大通り

夏の健康に
定評ある……
江戸川のうなぎを
七月廿二日 八月三日 は土用の丑の日
うなぎ料理專門　江戸川　電話五四七番

今般お客樣の御勸めにより、大正五年當時賣出した事ある天ぷらを始めました、何卒御試食を願ひます
主材料（車海老 銀魚 穴子）其他御注文に應ず。
金ぷら　大貞
平町田町　電話四百十三番

七月二十二日は土用丑の日
牛肉の御用命は品自慢の
大塚肉店へ
驛前通り　電話六六七番

吉例賣出し
七月廿二日 八月三日 は土用の丑の日
大蒲燒。うな丼
例年の通り多少不拘御命を御待して居ります。
出前は迅速仕ります……。
松本樓　電話百十三番

屋根材の大王（日の出 太陽印）便利瓦
耐久力優に二十ヶ年以上
壹坪葺上八十錢內外
日本建築紙工株式會社 磐城代理店
銘木 ベニヤ板 天井板 建具材 內外木材
建築材料ノ御用命ハ是非當店へ。
㊎織田材木商店
平町字紺屋町四〇　電話四六〇番

內臟外科
內臟一般 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
安齊外科醫院
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）

內臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院　電話三〇九

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三
天水庵華道教授　岡田華悅

壯快ニ進行スル
拾錢より
ポンソン丸

平町壹　森下玩具店

難波醫院
內科 小兒科
醫學博士　難波睦
平町新川端櫻堤　電五〇二
（…入院隨時…）
看護婦募集

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社東油特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五番）
營業種目
石油揮發油輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ……
〔型錄進呈〕
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）（八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇安全、便利、經濟のスタデリナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンショーストーブ

終始天候に惠まれず 水田一面黃色に化る
心を暗くする玉川方部農民

玉川、小名濱を筆頭に合計九十町歩と註せられた郡下の植付不能水田は過般の豪雨で曲りなりにも挿秧されるものと觀られ農家も些か愁眉を開いた形ちであつたが玉川村大原地內一部が之によつて俄かに馬耕を開始した位に止まり水利に惠まれた場所を除いては依然水不足で湯本、小名濱間の縣道兩側田地の大部分は全く水氣を失つて苗は何れも黃色に變じ見るも慘憺たる有樣を呈し今秋の大減收は到底免れぬ既定の事實として地主の心を暗からしめて居る

日大と技を競ふ 磐炭陸上選手
來月廿日金坂で交戰

磐城炭鑛競技部では來月二十日午前九時日本大學競技部を迎へ金坂トラックに於て對抗競技を決行するが當日磐炭の出場選手左の如し

△監督―會川源三(百米)宇野、中井川、阿部、加藤、瀧口 (二百米)中川宇野、中井川、阿部、加藤 (四百米)寒河井、小貫、阿部 (八百米)同前 (千五百米)小貫、山田、小池、東海林 (走高跳)川又、高橋、加藤、草野 (棒高跳)川又、小川、竹內、石川 (走巾)中井川 川又、高橋 (圓盤)川又 中井川、西牧、佐藤 (砲丸)西牧、川又、竹內、佐藤 (槍投)西牧、川又、佐藤、石川 (八百繼走)宇野、中井川、加藤 阿部、川又、中川

權利の得喪變更 半年に一萬五千件
平區管內登記所別統計

平區裁判所管內に於ける今年度上半期中の登記事項は合計一萬四千七百三十九件登錄稅納四萬一千四百一九圓七十一錢で平區が首位で最も少いのは上遠野であつたと

(平)四、一五七件一三、三八四、五八錢 (富岡)二、四五二件四、八五七、六四錢 (四倉)二、〇三二件四、七九二、四九錢 (浪江)一、九七四件四、六三五、〇二錢(小名濱)一、八二四件五、六八〇、一七錢 (植田)一、五三九件五、九三八、七九錢 (上遠野)七六一件二、一三一、〇二錢

鑛產稅の分配に 他の實例を參酌
各方面から資料蒐集

鑛產稅半額委讓に因る分配率は關係各町村にとつて極めて重大な問題なる丈け愼重にその攻究を進め過般來北海道炭鑛方面より參考資料を蒐集中だが右資料の到着を待ち更に近く協議會を平團体事務所に開催すると

磐中平商 庭球選手
愈々近く會津へ

愈々來る二十三日會津中に開かれる縣下中等學校庭球大會に磐中では安部(源)平商では室原兩教諭引率の下に征途に上るが宿舍はそれ〳〵左の如く決定した

(磐中)七日町一丁目美濃屋旅館 (平商)榮町二丁目米屋旅館 (双中)榮町一丁目米熊旅館

。。。。。磐女庭球練習 來る大會に出場する磐女庭球部では今十九日職員と對抗練習試合をなした

磐女籠球大勝

縣下大會の切迫したので磐女籠球部では昨十八日午後二時から平第一校を迎へて對戰したが左の如く斷然優勝した

磐女 35―15 平一

木炭組合の運命は 二千三百名の向背に
存廢の決を採る方針

揉みに揉んだ濱三郡木炭同業組合の幹部會は昨十八日午前十時から久之濱町龜屋旅館で開催、七年度決算報告後組合の存廢問題を協議した結果組合員二千三百名の賛否を取纏める事に決し午後四時散會した

第一繪畫展
入賞三十七名

平第一校では昨十八日職員及兒童の繪畫展覽會を催したが入賞者は左の如くである

(一年)馬目秀雄、小齊幹夫、中澤涉、淺原信一、吉田功、大和田一郎、(二年)佐藤善一、小野誠、柴田秀雄、柏木洋二、鈴木圭二、(三年)中野幹之助、淺原健、高橋卓、鈴木滿男、菊地信治、石川榮一、(四年)三井眞一、折笠直彥、齊藤修三、戶石雄二、新妻唯男、(五年)齊藤守男、吉田博、青木張、田島秀則、高階文三、(六年)小坂隆道、高橋善一、吉田光弘、安齊惠次郎、佐川淸、(高一)鷲赴一、吉田喜造、(高二)引地岩男、瀨戶利男、太田淸

全國展へ 平商生出陳
目下製作に精進

平商では來る十月催される長崎縣立佐世保商業學校創立十週年記念全國商業學校成績品展覽會に習字、圖書ポスター、英習字を出陳すべく夏休中製作に精進する事になつた

。。。。。第二兒童出陳。 平第二校では近く東京に開かれる森永製菓の裝展覽會にキャラメルの包裝で作つた細工物約五十點を出陳すべく目下優秀物を詮衡中であると

蠅取競技當籤番號
いはき新報社主催

の蠅取り競技の抽籤は今十九日平町會議事堂で行つたが當籤番號左の如し

一等五七四 二等四五 三四三 三等五六七 七八七、二〇六 一〇六

三八四 四一三 九五 五八二 五六 六二四 三九三 四一四 三六九 三七一 四六二 九八 四〇 四六〇 七九三 四九九

投槍
投書歡迎

。。。。。ラヂオ聽取者よ

◇ラヂオも隨分大衆化して普及して誠に結構な事だ、平町でも中流以上の家では大概の家で設けて居る樣だ、そして其のラヂオに一日の疲れた頭を休めて居る樣だ。然しそのラヂオすらも或一部の人にとつては惱みの種だ

◇我が家の近くに一人の有閑なお妾さんが居るが朝は六時のラヂオ体操から始まつて夜は十時まで一時の休みもなしにかけて居るよくも毎日飽きないでかけて居るものだと近所の人と一緒に感心して居る、一方に此の音には惱んで居る

◇然も其の音たるや隨分上等のラヂオとみゑて仲々大きい音がする。近所の人達は一同迷惑をしながらも近所の人としての交際上からも苦情も言へない。我が張の樣に毎日數學的計算で忙しい者は計算違ひをするし、我が妻の樣に病身の者は氣違ひになるし、我が息子の樣に來年高等學校を受驗せんとして勉强して居る者は勉强が滿足にできない。

◇此の樣に立派なラヂオも或一方に於いては非常な迷惑を與へて居る。平町にも數の內だ此んな人間が外に居ないとも限らぬ。電氣料が損する、聽取料が損する等と言はないで他人迷惑も若干考へてくれ

◇ラヂオをかけるなと他人の事に干渉はせぬが今少し低い音にしてくれせめて他人の家には聽えぬ低度にして戴けば願つたりかなつたりだ。ラヂオ聽取者よ少しは他人の迷惑も考へてくれ、お願ひするよ。(ラヂオに惱む男)

數百名が對峙する 本縣千葉漁民團を警戒
平署非常召集演習想定

平署では一昨十七日深更十一時突如『千葉縣漁船千葉丸外數隻の乘込員二百餘名は一昨十七日小名濱に上陸し代表者數名は同地磐城屋に於て小名濱漁民代表と會見雙て兩者間に於て紛爭中なる漁業區域問題に就て折衝した結果遂に不調に終るや千葉縣漁民數十名が小名濱側の歸途を要擊したるに端を發し地元漁民は警鐘を亂打して仲間を狩り集め數百名對峙し將に騷擾化せむとする形勢に在る旨急報に接し平署では管內巡査非常召集を行ひ横山署長から代表者に警告を發して一同を解散せしめたが尙ほ一部は各所に屯し形勢穩かならぬものあるので頑鈍物々しい辻々の警官は通行人を一人洩れなく訊問し兇器其他危險物の所持者は勿論苟も警戒を要すと認むるものは悉く警部補派出所に同行すべしとの想定により管內警官七十餘名の非常召集を行ひ昨報の順序にて無事終了した因に發令後十五分で應召した同町駐在金田巡査が一番早く他は平均一時二分を要したと

日大安部投手 磐中野球指導

磐中野球部招聘の日大安部投手は一昨十七日來平コーチを開始した外明二十日歸京する外前コーチャ早大多田捕手に代り來る廿三日から三日間の大會に於ける現地指導にも當る事になつた

勞働者過剩の內郷村
役場で連日對策に腐心

內鄉村では目下匡救事業として道路工費一萬一千七百圓(使用人夫延九千五百人)河川一萬圓(延五千百十人)の改修工事中であるが人夫一人の賃金は最低六十五錢乃至八十錢位で二十錢位の收入に過ぎぬ炭拾び等より遙かに割强なので同役場へは昨今でも一日二十名內外の求職者が殺到し役場では之れが消化に困惑してゐる因に右工事は全部來月中旬までに完成の豫定である

元主事補は執行猶豫
けふ平支部の判決

平町十五丁目六農林主事補木村安三郎(三三)に係る公文書毀棄、公印不正使用罪の公判は今十九日午前十時から平支部に於て中島裁判長係、關口、竹內兩判事陪席小林檢事關與で開廷、懲役四ヶ月三ヶ年間刑の執行猶豫を言渡された

鈴木醫學士
平町田町に開業

夏井村出身醫學士鈴木正男氏(磐中第二十回生)は令弟日本齒科醫學士喜政氏と共に從來東京下谷に於て耳鼻咽喉科を開業してゐたが今回平町田町藤田女學校前に開業し傍ら入山炭鑛の囑託醫として此程から一般の診療を開始したが遠近各方面からの患者で內外多忙を極めて居る 氏は大正十五年春日本醫專を卒業後昭和二年八月迄同醫科大學にて受講、本年三月同醫科大學を卒業、其間大正十五年四月より昭和二年八月迄東京山田病院にて篠田義平博士の、同三年迄福島市大原病院にて大原八郎博士の、同五年迄橫濱廣瀨病院にて廣瀨涉博士の何れも指導を受けた溫良篤學の靑年紳士で尙ほ令弟喜政氏も磐炭の囑託醫たるべく手續き中で內鄉村磐炭病院前に齒科を開業した

驛待合室に睡る怪童
父に叱られて家出と判る

今曉二時頃平驛待合室のベンチに群がる蚊の中に假睡して居る少年あるを平署員が發見取調ると右は福島市陳馬町二〇二幸次二男石崎豐正(一三)で些細な事から實父に叱責され十七日無斷家出し途方に暮れて居たものと判明說諭の上親許へ引渡した

磐東銀行株主總會
來廿四日開催 利益配當其他決議

たる植田町磐東銀行では此程重役會を開き本年上半期分營業報告書、財產目錄、損益計算書及利益金處分案を內定し來二十四日午前九時からの株主總會に附議する事となつたが今期成績は次の如くである

當期利益金三千九百四十七圓四十四錢、內三百圓法定準備金、百二十圓退職給與基金、千七百七十圓(年二分四厘)株主配當金、千七百五十七圓四十四錢後期繰越金

。。。。。小學教員請遊 平第一校職員は來る二十二日四倉海岸に、第二校職員は同日植田附近の鮫川に何れも淸遊を試みる

炭鑛行進曲 懸賞募集
細目追て發表

磐炭の慰安に 箕輪村民感激

磐炭キャンプ隊一行の映畫及レコードコンサート等によつて一夜の慰安を得た箕輪村榊小屋の住民は之の催しに刺戟され來月二十七日の舊七夕をトし感謝祭を執行し村民慰安の會合を催すべく靑年團で目下具体案を作成中であると

高木氏講演

渡邊村松小屋篤農家豫備陸軍步兵少尉高木義枝氏は東京府立第二中學校の招待に應じ十七日午後六時より全校生徒の爲に農村產業の實際に關する講演をなした

職工大火傷
全治一ヶ月の見込

平町白銀町河田鐵工場職工鮎淵喜代八(五八)は十五日午後六時頃四倉町三星商會倉庫で瓦斯熔接作業中タンクに引火し上半身、胸、兩腕に全治一ヶ月の火傷を負ひ今十九日健康保險法に依り平署に屆出た

傳染病警戒季に入る
現在二名隔離の平町が豫防に就て考慮を回らす

無患者三十九日間と云ふ創設來の好記錄を示した平隔離病舍には此程腸チブス、赤疫各一名が收容され弗々此種傳染病の流行季に入り內鄉、夏井の如き現在の隔離者各七名を算する等今後秋季へかけ罹病者の續出を見るのが例なので當局は目下之れが豫防警戒に就て考慮中である

。。。。。鐵道衞生宣傳 鐵道では例年の如く本月二十日より十日間に亘りポスター揭出映畫、講演等に依りチブス豫防宣傳を行ひ職員家族及構內營業人等に對し健康第一を强調すると

。。。。。平署土用稽古 二十日から十日間行ふ

。。。。。三中等學校終業式 平三中等學校の今學期終業式は明廿日午前九時から擧行す

。。。。。平町傳染病者數 平町上半期の傳染病患者左の如し合計三十一人で昨年同期より一名の增加である (括弧內昨年) 腸チブス六(一)ヂフテリア二二(二五)赤痢(二)猩紅熱一(二)疫痢二

。。。。。田人農事講習會 二十二日午前十時から役場で開く

。。。。。隣縣町議來郡 茨城縣湊町助川助役外町議十五名は昨十八日小名濱漁港を視察した

。。。。。銅線泥に求刑 川部村大字沼込字宿六岩崎太郎事坑夫李鎭泰(四六)が昨年十月中赤井村大字赤井字畑子源地內丸菱炭鑛よりケーブル銅線約百尺(價格百五十圓)を竊取した事件の公判は昨十八日午後一時から平區に於て中島裁判長係、小林檢事關與で開廷、求刑五ヶ月、言渡しは明廿日午前九時

。。。。。故買 昨報銅線泥に關聯した內鄉村曲山倉平(三九)同村細谷正次(三五)にかゝる贓物故買の公判は明廿日午前九時から平區に於て竹內判事三堀檢事係り、眞木、水野兩辯護人列席の下に開廷される

。。。。。磐女水泳練習 磐女校では來月三日から六日間久之濱海岸に於て水泳練習會を開くが十八日迄希望者七十名に達した

。。。。。三堀檢事出張 平檢事局三堀檢事は昨十八日相馬方部の選擧違反に關して出張明廿日歸平すると

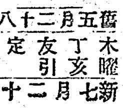
。。。。。隔離 內鄉村宮畑山次郎(二八)は昨十八日腸チブスと決定した

。。。。。鼠賊 當時住所不定無職群馬縣多野平中星野村田野原生れ笹岡光雄(三二)は五日午後二時頃湯本町入山プール脫衣場に脫いてあつた洋服上衣ポケットから金側腕時計一個(價格十八圓)を竊取した外數件の胡鼠泥を働き昨十八日平署に檢擧され目下餘罪取調中

平町慶弔錄

△出生

四軒町二一新潟縣南蒲原郡庄川村堀湯二二八一荒井虎雄長女純子 立町九六好間村上好間中道一紫野戊平二女キヨ子 胡麻澤一一四安達郡小濱町長折笹何一九渡邊政見長男英雄



舊五月二十八日
木曜 丁亥 友引 定 井宿
新七月二十日

▲一白の人 巢を立たざれば鳥も擊たれまじ守靜が肝要▲二黑の人 慾望の大なるに過ぎて却て損失を高むべし▲三碧の人 躁ちよするは好ましからず自信を決行すべし▲四綠の人 妄想を去り苦より樂に入らんと心掛くべし▲五黃の人 窓の如く運び難き日氣折れは更にかひなし▲六白の人 圓轉滑脫にして人と交りを結べば次第に吉▲七赤の人 小事と侮りて油斷すな蟻の穴より堤も崩る▲八白の人 巧言を退け分を守りて補助すれば功果揚る

諸判定總需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神 鑑

土用丑の日 七月廿一日 八月三日
魚榮自慢の
うなぎ丼 金三十五錢 金五十錢
蒲燒 金五十錢以上
右吉例により奉仕的に勉强致しますから多少に不拘御用命を御願致します
(出前迅速)
魚榮 田町 電話四二四番

土用丑の日 七月二十一日…八月三日
うなぎ御用命は奴へ
うなぎ奴 田町 電話二二番

冷却力が永久におごろへず いつまでも使へる冷藏器
冷藏器は一夏や二夏で構造に狂ひが來て冷え方が弱る樣では眞の文化的重寶と言ふ事が出來ません其點で木材を最も嚴撰しそれを完全なる設備の下に數年間十二分に乾燥して使用する、丸ほん冷藏器は絕對に狂ひを生ぜず永久によく冷る經濟的な冷藏器として御愛用の皆樣の間に古くから多大の御信用を博して居ります。
平町三丁目 (本) 丸ほん冷藏器 電話三五九
岩谷冷藏器の代理店も致して居ります。

耳鼻咽喉科專門 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前
齒科口腔外科 日本齒科醫學士 鈴木喜政 內鄉村高坂磐炭病院前
鈴木醫院